

## V14a すばる望遠鏡観測装置「IRCS」の総合性能評価

寺田宏、小林尚人、Mark Weber、後藤美和、Bob Potter (国立天文台ハワイ観測所)、Alan Tokunaga (ハワイ大学天文学研究所)、ハワイ大学 IRCS チーム、すばるチーム

すばる望遠鏡の観測装置として開発された IRCS (Infrared Camera and Spectrograph) は中・高空間分解能 (1画素 0.058 秒角; 58mas camera・1画素 0.023 秒角; 23mas camera) の撮像機能と中・高分散 ( $R=100-1000$ ; grism mode・ $R=5000-20000$ ; echelle mode) の分光機能を有した汎用の近赤外線観測装置である。IRCS は、2000年2月26日から3月3日にかけて、すばる望遠鏡に取りつけられ、初めての機能試験観測 (First Light) を行った。この観測は、Adaptive Optics(AO) および Tip-Tilt を用いず IRCS 単独で行われ、58mas camera、grism mode、echelle mode の性能評価がなされた。23mas camera の性能評価は、今秋に予定されている AO を用いた試験観測時に行われる。

この結果、上記の mode(58mas camera、grism mode、echelle mode) において、ほぼ期待通りの性能を確認した。

本発表では、主に First Light で得られた結果に基づいて、現状での IRCS の性能を総合的に評価する。